

「足を引きずる勝利者」(要旨)  
聖書箇所：創世記32章1~32節

【1】 ヤコブの帰郷

- ・旅の道中にヤコブが見たもの：「神の陣営 (マネ)」  
「ここは神の陣営だ」(創世記 32:2)→ヤコブはマハナイム(二つの陣営)と呼んだ
  - ・ヤコブが抱えていた未解決な課題：兄エサウを欺いたことによる兄の怒り。(創世記 27:41~43)
  - ・エサウは死海南方のセイルに住んでいたが、北上してペヌエルへ
- ▷ヤコブの選択：セイルにいるエサウに自分の近況を伝え、二十年ぶりに対面する道。

【2】 計画、祈り、計画、そして祈り

- ・エサウとの対面に向けたヤコブの行動：
    - (1) 計画：兄の攻撃を想定し宿営を二つに分けた。(同 32:7~8)
    - (2) 祈り：神の恵みとまことによって祝福されたこと、正直に心にある不安と恐れを神に打ち明けた。(同 32:9~12)
    - (3) 計画：エサウの怒りをなだめるための贈り物を用意。(同 32:13~21)
    - (4) 祈り：神と一人向き合うためヤボクの渡し場に残った。(同 32:22~32)
- ▷目下の危機において「計画」を立て、同時に神の介入を期待し「祈り」をささげたヤコブ。

【3】 足を引きずる勝利者

- ・ヤコブの人物像：「かかをつかむ者」、「押しのける者」(参照; 創世記 25:26, 27:35~36)
- ・兄との再会を前に神と向き合い格闘したヤコブ  
※「神」(創世記 32:30)、「御使い」(杪ア 12:3,4)
- ・勝ち目のない戦いにおける勝利  
「私はあなたを去らせません。私を祝福してくださらないければ」(創世記 32:26)
- ・ヤコブからイスラエルへ  
暗闇の中での戦いを経た「ヤコブ」は曙の光に照らされ、  
「イスラエル (神は戦う/神と戦う)」としての歩みをスタートする。  
自分への信頼から神により頼む者「足を引きずる勝利者」へ。

▷ヤコブだけではなく、私たちが一人で神と向き合い格闘せざるを得ない場面がある。あなたはすでに「古い人をその行いととも脱ぎ捨てて、新しい人を着た」だろうか？

「互いに偽りを言ってはいけません。  
あなたがたは古い人をその行いととも脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。  
新しい人は、それを造られた方のかたちにしたがって新しくされ続け、真の知識に至ります。」  
(コロサイ3:9~10)

